

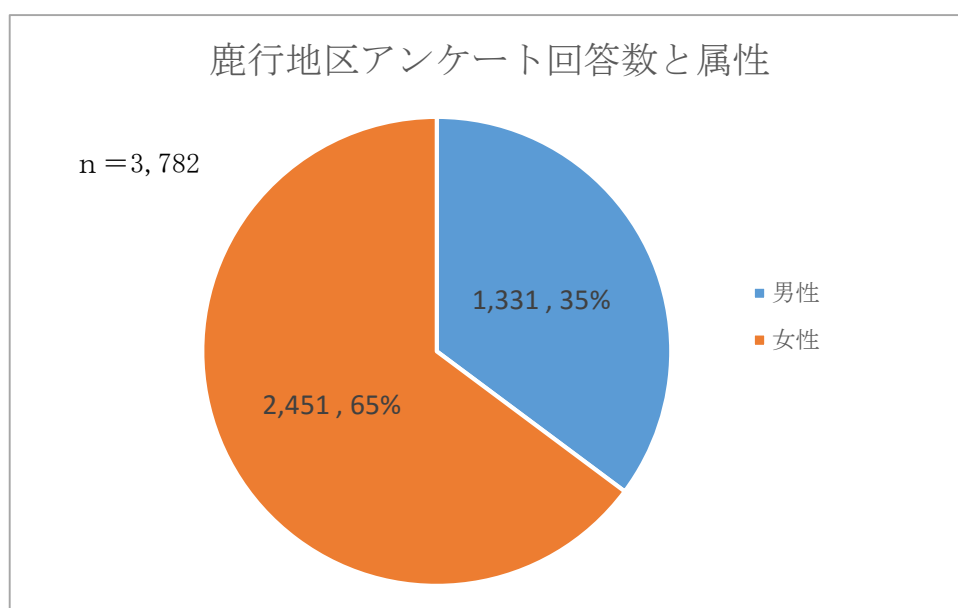
茨城県鹿行地区
プレミアム商品券動向調査報告書
～消費喚起効果と購買動向～

平成 28 年 2 月

鹿行地区（神栖市、鹿嶋市、潮来市、銚田市、行方市）におけるプレミアム商品券について購入者よりアンケート調査を行った。その回答結果から、鹿行地区における消費喚起効果とプレミアム商品券購入者の購買動向についてデータを整理し、推察を行った。

I. アンケート回収数について

鹿行地区におけるアンケート回収総数は3,782件であり、男性の回答数が1,331件であり35%を占め、女性は2,451件と65%を占めている。



各商工会ごとのアンケート回収数は以下の通りである。女性の回答率がいずれも60%~70%と男性を上回っている。

○アンケート回収数と属性

	男性		女性		合計 回答数
	回答数	%	回答数	%	
神栖市	430	32%	897	68%	1,327
鹿嶋市	121	37%	202	62%	323
潮来市	90	30%	213	70%	303
銚田市	483	40%	732	60%	1,215
行方市	207	34%	407	66%	614
合計	1,331	35%	2,451	65%	3,782

II. プレミアム商品券の消費喚起効果について

1) 鹿行地区における消費喚起効果

○商品券の使用目的と支払い方法

(単位 円)

商品券の使用目的	商品券での支払い	商品券で支払いに合わせ追加支出した現金など
a. 普段の買い物を商品券で支払った	① 109,608,256	
b. 商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入	② 29,443,000	④ 17,719,583
合計	③ 139,051,256	
	①+②+④の合計	156,770,839

○消費喚起効果

(単位 円)

	アンケート	構成比
商品券関連消費額	156,770,839	100.0%
商品券で支払った額 (a)	139,051,256	88.7%
現金で支払った額	17,719,583	11.3%

商品券があるので買った額 (b)	47,162,583	30.1%
商品券がなくても買った額	109,608,256	69.9%
消費喚起率 (b) / (a)	33.9%	

鹿行地区における5つの商工会にてアンケートに回答した3,782人が、商品券で支払った金額は139百万円、一人当たりの利用金額は36,766円となる。また、商品券の支払いに合わせて追加支出した現金などは、回答者全体で18百万円、一人当たり平均では4,685円であることがわかった。このことから、鹿行地区における商品券関連消費は一人当たり、41,451円であると推察する。

商品券があるので買った額（商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入、商品券および現金など）は47百万円となり、商品券で支払った額139百万円との比率から、鹿行地区の消費喚起率は33.9%であると考えられる。

2) 各地域ごとの消費喚起効果

①神栖市の消費喚起効果

○商品券の使用目的と支払い方法

(単位 円)

商品券の使用目的	商品券での支払い	商品券で支払いに合わせ追加支出した現金など
a. 普段の買い物を商品券で支払った	① 41,364,000	
b. 商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入	② 10,338,000	④ 4,595,000
合計	③ 51,702,000	
①+②+④の合計		56,297,000

○消費喚起効果

(単位 円)

	アンケート	構成比
商品券関連消費額	56,297,000	100.0%
商品券で支払った額 (a)	51,702,000	91.8%
現金で支払った額	4,595,000	8.2%

商品券があるので買った額 (b)	14,933,000	26.5%
商品券がなくても買った額	41,364,000	73.5%
消費喚起率 (b) / (a)	28.9%	

神栖市商工会にて、アンケートに回答した1,327人が商品券で支払った金額は52百万円、一人当たりの利用金額は、38,962円となる。また、商品券の支払いに合わせて追加支出した現金などは、回答者全体で5百万円、一人当たり平均では3,463円であることがわかった。このことから、商品券関連消費は一人当たり、42,425円であると推察する。

商品券があるので買った額（商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入、商品券および現金など）は14百万円となり、商品券で支払った額52百万円との比率から、神栖市の消費喚起率は28.9%であると考えられる。

②鹿嶋市の消費喚起効果

○商品券の使用目的と支払い方法

(単位 円)

商品券の使用目的	商品券での支払い	商品券で支払いに合わせ追加支出した現金など
a. 普段の買い物を商品券で支払った	① 5,921,900	
b. 商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入	② 1,278,000	④ 451,900
合計	③ 7,199,900	
	①+②+④の合計	7,651,800

○消費喚起効果

(単位 円)

	アンケート	構成比
商品券関連消費額	7,651,800	100.0%
商品券で支払った額 (a)	7,199,900	94.1%
現金で支払った額	451,900	5.9%

商品券があるので買った額 (b)	1,729,900	22.6%
商品券がなくても買った額	5,921,900	77.4%
消費喚起率 (b) / (a)	24.0%	

鹿嶋市商工会にて、アンケートに回答した323人が商品券で支払った金額は7百万円、一人当たりの利用金額は、22,291円となる。また、商品券の支払いに合わせて追加支出した現金などは、回答者全体で45万円、一人当たり平均では1,399円であることがわかった。このことから、商品券関連消費は一人当たり、23,690円であると推察する。

商品券があるので買った額（商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入、商品券および現金など）は172万円となり、商品券で支払った額720万円との比率から、鹿嶋市の消費喚起率は24.0%であると考えられる。

③潮来市の消費喚起効果

○商品券の使用目的と支払い方法

(単位 円)

商品券の使用目的	商品券での支払い	商品券で支払いに合わせ追加支出した現金など
a. 普段の買い物を商品券で支払った	① 9,607,000	
b. 商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入	② 761,000	④ 70,000
合計	③ 10,368,000	
	①+②+④の合計	10,438,000

○消費喚起効果

(単位 円)

	アンケート	構成比
商品券関連消費額	10,438,000	100.0%
商品券で支払った額 (a)	10,368,000	99.3%
現金で支払った額	70,000	0.7%

商品券があるので買った額 (b)	831,000	8.0%
商品券がなくても買った額	9,607,000	92.0%
消費喚起率 (b) / (a)	8.0%	

潮来市商工会にて、アンケートに回答した303人が商品券で支払った金額は10百万円、一人当たりの利用金額は、34,218円となる。また、商品券の支払いに合わせて追加支出した現金などは、回答者全体で7万円、一人当たり平均では231円であることがわかった。このことから、商品券関連消費は一人当たり、34,449円であると推察する。

商品券があるので買った額（商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入、商品券および現金など）は83万円となり、商品券で支払った額10百万円との比率から、潮来市の消費喚起率は8.0%であると考えられる。

④ 銚田市の消費喚起効果

○商品券の使用目的と支払い方法

(単位 円)

商品券の使用目的	商品券での支払い	商品券で支払いに合わせ追加支出した現金など
a. 普段の買い物を商品券で支払った	① 34,493,356	
b. 商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入	② 10,480,000	④ 6,165,683
合計	③ 44,973,356	
	①+②+④の合計	51,139,039

○消費喚起効果

(単位 円)

	アンケート	構成比
商品券関連消費額	51,139,039	100.0%
商品券で支払った額 (a)	44,973,356	87.9%
現金で支払った額	6,165,683	12.1%

商品券があるので買った額 (b)	16,645,683	32.5%
商品券がなくても買った額	34,493,356	67.5%
消費喚起率 (b) / (a)	37.0%	

銚田市商工会にて、アンケートに回答した1,215人が商品券で支払った金額は45百万円、一人当たりの利用金額は、37,015円となる。また、商品券の支払いに合わせて追加支出した現金などは、回答者全体で6百万円、一人当たり平均では5,075円であることがわかった。このことから、商品券関連消費は一人当たり、42,090円であると推察する。

商品券があるので買った額（商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入、商品券および現金など）は17百万円となり、商品券で支払った額45百万円との比率から、銚田市の消費喚起率は37.0%であると考えられる。

⑤行方市の消費喚起効果

○商品券の使用目的と支払い方法

(単位 円)

商品券の使用目的	商品券での支払い	商品券で支払いに合わせ追加支出した現金など
a. 普段の買い物を商品券で支払った	① 18,222,000	
b. 商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入	② 6,586,000	④ 6,437,000
合計	③ 24,808,000	
	①+②+④の合計	31,245,000

○消費喚起効果

(単位 円)

	アンケート	構成比
商品券関連消費額	3,124,000	100.0%
商品券で支払った額 (a)	24,808,000	79.4%
現金で支払った額	6,437,000	20.6%

商品券があるので買った額 (b)	13,023,000	41.6%
商品券がなくても買った額	18,222,000	58.4%
消費喚起率 (b) / (a)	52.5%	

行方市商工会にて、アンケートに回答した614人が商品券で支払った金額は25百万円、一人当たりの利用金額は、40,403円となる。また、商品券の支払いに合わせて追加支出した現金などは、回答者全体で6百万円、一人当たり平均では10,483円であることがわかった。このことから、商品券関連消費は一人当たり、50,886円であると推察する。

商品券があるので買った額（商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入、商品券および現金など）は13百万円となり、商品券で支払った額24百万円との比率から、行方市の消費喚起率は52.5%であると考えられる。

Ⅲ. プレミアム商品券購入者の購買動向について

1) 鹿行地区の購買動向

(単位 千円)

分類	商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入		商品券の支払いに合わせて追加支出した現金など	
	金額	%	金額	%
生鮮食料品	10,207	22%	1,980	13%
加工食品・飲料など	4,180	9%	782	5%
衣類・寝具	2,918	6%	818	5%
家具・建具	1,051	2%	406	3%
家電製品	11,089	24%	4,974	32%
宝飾品・かばん・革製品	434	1%	52	0%
時計・眼鏡	761	2%	202	1%
化粧品、医薬品	1,154	3%	262	2%
台所用品	662	1%	141	1%
自動車・自動車本体	538	1%	32	0%
自動車関連部品	1,859	4%	875	6%
玩具・娯楽用品	432	1%	55	0%
住宅関連	1,191	3%	1,669	11%
娯楽・レジャー	1,078	2%	520	3%
外食	2,952	6%	574	4%
美容・エステ	870	2%	217	1%
教養・教育	361	1%	111	1%
農業用機材	753	2%	1,316	8%
その他	3,055	7%	577	4%
合 計	45,544	100%	15,562	100%

商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入において回答のあった商品分類においては、「生鮮食料品」、「加工食品飲料など」、「外食」の食料品関連に利用したとの回答が多く、3分類合計の金額比率は37%と全体のおよそ1/3を占めている。耐久消費財では、「家電製品」の購入金額が全体の24%であり、商品券の支払いに合わせて追加支出した現金などの回答でも利用金額の32%と高い数値となっている。

2) 各地域ごとの購買動向について

①神栖市の購買動向

(単位 千円)

分類	商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入		商品券の支払いに合わせて追加支出した現金など	
	金額	%	金額	%
生鮮食料品	6,137	31%	1,336	22%
加工食品・飲料など	2,342	12%	504	8%
衣類・寝具	1,287	6%	495	8%
家具・建具	598	3%	300	5%
家電製品	3,060	15%	2,120	35%
宝飾品・かばん・革製品	205	1%	8	0%
時計・眼鏡	227	1%	56	1%
化粧品、医薬品	587	3%	142	2%
台所用品	316	2%	81	1%
自動車・自動車本体	391	2%	12	0%
自動車関連部品	246	1%	31	1%
玩具・娯楽用品	357	2%	48	1%
住宅関連	419	2%	142	2%
娯楽・レジャー	178	1%	73	1%
外食	1,685	8%	386	6%
美容・エステ	425	2%	82	1%
教養・教育	316	2%	108	2%
その他	1,296	6%	206	3%
合計	20,187	100%	6,050	100%

商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入において回答のあった商品分類においては、「生鮮食料品」が31%、「加工食品・飲料など」が12%と食料品関連が高い数値を示している。「外食」の8%も合わせると50%を超え、鹿行地区全体と比較して、食料品関連への支出が多いことがわかる。商品券の支払いに合わせて追加支出した現金などにおいてもこの3分類が高いことから、プレミアム商品券を利用して普段は控えている食料品、外食に支出をしているものと推察する。

②鹿嶋市の購買動向

(単位 千円)

分類	商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入		商品券の支払いに合わせて追加支出した現金など	
	金額	%	金額	%
生鮮食料品	1,162	39%	236	33%
加工食品・飲料など	256	9%	72	10%
衣類・寝具	296	10%	88	12%
家具・建具	4	0%	1	0%
家電製品	189	6%	108	15%
宝飾品・かばん・革製品	34	1%	15	2%
時計・眼鏡	21	1%	4	1%
化粧品、医薬品	148	5%	59	8%
台所用品	102	3%	36	5%
自動車・自動車本体	23	1%	1	0%
自動車関連部品	0	0%	0	0%
玩具・娯楽用品	35	1%	1	0%
住宅関連	0	0%	0	0%
娯楽・レジャー	117	4%	3	0%
外食	335	11%	47	7%
美容・エステ	49	2%	12	2%
教養・教育	14	0%	2	0%
その他	157	5%	21	3%
合計	2,942	100%	706	100%

商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入において回答のあった商品分類においては、「生鮮食料品」が39%と最も高く、次いで「外食」が11%となっている。鹿行地区全体では利用金額が高い「家電製品」は6%と低い比率になっている。商品券の支払いに合わせて追加支出した現金などの回答においても、「生鮮食料品」が33%と最も高く、スーパー、生鮮食品店において普段よりも購入が増えたものと思われる。消費喚起のデータでは、商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入は1,278千円であり、具体的に尋ねたときと、商品券の入手が消費のきっかけになったか否かは判断が難しい面があると思われる。

③潮来市の購買動向

(単位 千円)

分類	商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入		商品券の支払いに合わせて追加支出した現金など	
	金額	%	金額	%
生鮮食料品	111	12%	10	8%
加工食品・飲料など	61	7%	2	2%
衣類・寝具	258	28%	49	42%
家具・建具	0	0%	0	0%
家電製品	274	29%	18	15%
宝飾品・かばん・革製品	0	0%	0	0%
時計・眼鏡	0	0%	0	0%
化粧品、医薬品	9	1%	1	1%
台所用品	5	1%	8	7%
自動車・自動車本体	0	0%	0	0%
自動車関連部品	0	0%	0	0%
玩具・娯楽用品	10	1%	5	4%
住宅関連	75	8%	6	5%
娯楽・レジャー	12	1%	6	5%
外食	41	4%	7	6%
美容・エステ	28	3%	5	4%
教養・教育	0	0%	0	0%
その他	47	5%	1	1%
合計	931	100%	118	100%

商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入において回答のあった商品分類においては、「家電製品」が29%と最も高く、次いで「衣類・寝具」が28%となっている。鹿行地区全体では22%の利用比率である「生鮮食料品」は12%と低い比率になっている。

商品券の支払いに合わせて追加支出した現金などの回答においても、「衣類・寝具」が42%と最も高く、次いで「家電製品」となっている。これらのことから、潮来市での商品券購入者は、他の地域と比較して、購買の目的を持ってプレミアム商品券の購入を行っていることも考えられる。

④銚田市の購買動向

(単位 千円)

分類	商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入		商品券の支払いに合わせて追加支出した現金など	
	金額	%	金額	%
食料品	551	5%	215	3%
家電製品	4,152	40%	1,789	29%
外食	396	4%	97	2%
衣料品・寝具	710	7%	126	2%
理容・美容・エステ	250	2%	95	2%
アクセサリ・時計・眼鏡	471	4%	134	2%
娯楽・レジャー・宿泊	538	5%	121	2%
医薬品・医療品	50	0%	23	0%
図書・文具	166	2%	19	0%
生活雑貨	226	2%	33	1%
家具・建具	285	3%	105	2%
農業用機材	753	7%	1,316	21%
自動車関連	1,121	11%	790	13%
住宅関連	475	5%	1,261	20%
その他	336	3%	128	2%
合計	10,480	100%	6,252	100%

銚田市のアンケート項目は他の地域と若干、異なっており、分類が少し違うので他の地域と比較するときに注意が必要である。他の地域にはみられない分類として、「農業用機材」がある。

商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入において回答のあった商品分類においては、「家電製品」が40%と最も高く、次いで「自動車関連」が11%となっている。他の地域では高い「食料品」が5%、「外食」が4%と食に関連するきっかけの支出が他の地域と比べて低いのが特徴的である。

また、「農業用機材」が商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入では7%を占め、商品券の支払いに合わせて追加支出した現金などの回答では、21%と大きな割合をしめている。日常生活における消費に限らず、業務における需要もこの地域では消費の喚起がみられる。

⑤行方市の購買動向

(単位 千円)

分類	商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入		商品券の支払いに合わせて追加支出した現金など	
	金額	%	金額	%
生鮮食料品	2,521	23%	290	12%
加工食品・飲料など	1,245	11%	96	4%
衣類・寝具	367	3%	60	3%
家具・建具	164	1%	0	0%
家電製品	3,414	31%	939	40%
宝飾品・かばん・革製品	195	2%	29	1%
時計・眼鏡	42	0%	8	0%
化粧品、医薬品	360	3%	37	2%
台所用品	239	2%	16	1%
自動車・自動車本体	124	1%	19	1%
自動車関連部品	492	4%	54	2%
玩具・娯楽用品	30	0%	1	0%
住宅関連	222	2%	260	11%
娯楽・レジャー	233	2%	317	13%
外食	495	4%	37	2%
美容・エステ	118	1%	23	1%
教養・教育	31	0%	1	0%
その他	827	7%	169	7%
合計	11,119	100%	2,356	100%

商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入において回答のあった商品分類においては、「家電製品」が31%と最も高く、次いで「生鮮食料品」が23%となっている。家電製品は鹿行地区全体で24%であり、他の地域に比べて、家電製品の購入が目立つ。

また、品券の支払いに合わせて追加支出した現金などの回答においても「家電製品」は40%となっており、他の項目を大きく引き離している。他の分類では、「娯楽・レジャー」が13%と2番目に高いことも、この地域の特徴と思われる。

IV. まとめ

- アンケート回答数は3,782件であり、その内、男性が1,331人、女性が2,451人であり、女性が回答者の65%を占めている。
- アンケート回答者3,782人が商品券があるので買ったと答えた額（商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入は商品券および現金など）は47百万円、商品券で支払った額は139百万円、商品券関連消費は157百万円であった。
- 鹿行地区において、商品券で支払われた一人当たりの利用金額は36,766円であり、商品券の支払いに合わせて追加支出した現金などは、一人当たり平均利用額では4,685円と考えられる。このことから、鹿行地区における商品券関連消費は一人当たり、41,451円であると推察する。
- 鹿行地区における5つの市において、商品券で支払われた一人当たりの利用金額は22,291円～40,403円とばらつきがある。商品券で支払いに合わせて追加支出した現金などのアンケート結果においても、地域によってばらつきがあり、一人当たりの平均金額では231円～10,483円となっている。
- 商品券があるので買った額（商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入、商品券および現金など）は47百万円となり、商品券で支払った額139百万円との比率から、鹿行地区の消費喚起率は33.9%であると考えられる。
- 消費喚起率においては、地域毎に大きく異なり8.0%～52.5%となっている。差が大きく出た理由については、今回のアンケート調査だけでは明らかにできず、多面的に調べる必要があると思われる。プレミアム商品券の加盟店などがどれだけあるかなど、地域毎のさまざまな事情が影響しているものと思われる。
- 鹿行地区全体において、商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入において回答のあった商品分類においては、「家電製品」の購入金額が11百万円で全体の24%を占め最も高い値であった。
2番目に購入金額が大きかったのは「生鮮食料品」であり、購入金額が10百万円で全体の22%を占めている。その他の食料品関連では「加工食品・飲料など」の購入金額が4百万円で9%、「外食」の購入金額が3百万円で6%であった。「食」に関する購入は37%と全体の1/3と高くなっている。

○商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入において、最も高い利用額となった「家電製品」ではあるが、地域によってばらつきが見られる。最も低い地域は、購入額全体の6%、高い地域は40%であった。このような、ばらつきの傾向は、2番目に購入金額の大きかった生鮮食品についても見ることができる。

○アンケートにおいて消費喚起の問いでは、商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入が29百万円、商品券で支払いに合わせ追加支出した現金などは18百万円となっている。

しかし、個別に商品毎に聞いてみると、購買動向の表のように、商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入が46百万円、商品券で支払いに合わせ追加支出した現金などは17百万円となっており、データ間に差異が出ている。特に「商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入」については、全体で聞いたときと、商品分類ごとに聞いたときでは17百万円の開きがある。

アンケートで消費者に「商品券の入手がきっかけになった」と判断を求めているが、消費者の心理の微妙な変化で変わってしまうものであり、定量的な観測に少し難しい側面があると思われる。

以上